

## インタビュー

## エムジープレシジョン株式会社



図1 梶川浩 代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 梶川 浩

設立：1996年8月

住所：

<本社・工場> 〒736-8602

広島県広島市安芸区船越南1丁目6番1号

<金型工場> 〒739-1754

広島県広島市安佐北区小河原町1562-1

従業員：125名

電話：082-822-1305

URL：www.mgpk.co.jp

## Q1. 会社の概要についてお聞かせ下さい。

弊社は、株式会社日本製鋼所（JSW）100%出資の子会社として、マグネシウム（Mg）合金部品の開発・設計・製造・販売を行っています。

親会社であるJSWは、1992年に米国のチクソマット社よりMg合金の射出成形法であるチクソモールディング法を導入し、実用化を目指した量産成形モデル工場として1996年にエムジープレシジョン（MGP）が設立されました。弊社が製造するMg合金部品は、カメラやIT機器、自動車部品といったさまざまな分野で採用されています。特に近年、地球温暖化といった環境問題により、機器の軽量化、リサイクル化が求められ、自動車へのMg合金部品の採用ニーズが高まっています。

## Q2. 業務内容についてお聞かせ下さい。

Mg合金部品は、設計・金型製作・射出成形・機械加工・化成処理・塗装・検査といった工程を経て出来上がります。MGPでは一部を外部委託するものの、一貫した工程管理の下でMg成形品の製造を行っています。

## Q3. 社名の由来をお聞かせください。

チクソモールディング法には、従来の製法であるダイカスト法に比べ、溶解炉が無い、作業性といった環境性に優れているというメリットがありますが、Mg合金部品におい

ても薄肉化が可能、表面品質が高い、内部品質が良い、寸法精度に優れるといった特長があります。そうした観点から、より精度の高い（precision）Mg合金部品を製造、提供していきたいという思いから、社名をエムジープレシジョンとしました。



図2 本社及び本社工場の外観

## Q4. 学会との係わりについてお聞かせ下さい。

Mgは軽金属ですから軽金属学会、Mg材料関連ならびに製造法に関係している鑄造関連の学会で、口頭発表したり論文を投稿したりしています。残念ながら、貴学会との関わりはありませんでした。

今回このような機会をいただき接点ができましたので、関わりを持てるよう前向きに検討します。

**Q5. 現在危惧していることや今後の展望についてお聞かせ下さい。**

軽量化の素材といえば、一般の多くの方がアルミニウムやプラスチックをイメージされるように、まだまだ Mg は認知されていません。これは産業においても同様で、弊社が Mg 合金部品を主に納めている自動車業界や他の業界においても浸透していないのが現状で、市場はアルミの数十分の一でしかありません。燃えやすいとか腐食しやすいとか負のイメージを凌駕するメリットを生かした活用を進めていきたいと思えます。

図3に示す設備が、弊社が採用しているマグネシウム成形機（チクソモールディング）であり、図4に示す Mg 合金チップを成形機内で溶融、金型に充填させることで Mg 製品を製造します。図5は MGP における製品を示しますが、自動車部品、カメラなどが主力となっています。Mg 合金はプラスチックと比べてリサイクルしやすいというメリットに加え、製品に応じて放熱性、電磁波シールド性、振動吸収性、寸法安定性に優れるといった特性が生かされ採用されています。

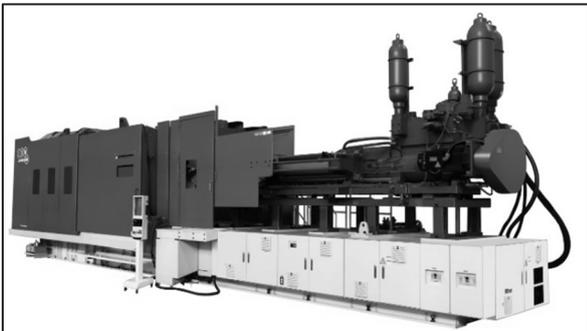


図3 マグネシウム成形機 (JLM1300-MG II eL)



図4 Mg 合金チップ

特に自動車部品においては、軽量化が大きなニーズであり、加えて自動車の CASE を目的としたディスプレイへの

採用が伸びています。こちらはチクソモールディング法が持つ薄型化、寸法・表面精度の良さに加え弊社の設計・生産技術の高さから、部品点数削減や組立工数削減といったメリットも生まれ、採用されているお客様もおられます。

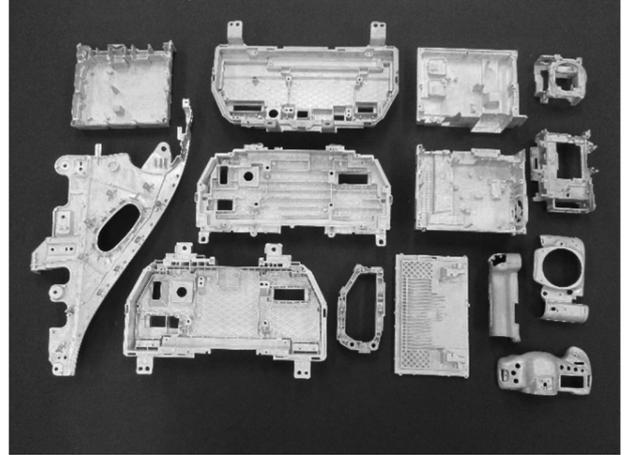


図5 マグネシウム合金部品 (自動車・カメラ)

**Q6. 会社の一押しについてお聞かせ下さい。**

Mg 合金部品を市場に提供するにあたって、日本製鋼所グループとして、装置の開発・製作から部品の供給まで全ての視野で製品開発ができる点で、よりお客様のニーズに合致した製品作りができるものと思います。そこが一番の強みだと思います。

**Q7. 学会に期待することについてお聞かせ下さい。**

より Mg 合金を認知いただき、市場に広めるためにご協力いただける点があれば、是非お願いしたいと思います。特に、Mg 部品を採用する上で、耐食性、高温強度、コストといった課題を抱えています。そうした課題を解決する素材の開発に期待をしたいと思います。

**Q8. 社会に対してのアピールポイントをお聞かせ下さい。**

Mg 合金を世に広めるために、弊社が部品採用の実績作りを進めていくのはもちろんですが、その Mg 合金部品の供給体制を整備することが、市場の拡大に寄与すると思っています。そのことにより、地球環境の問題に少しでも手助けになれば、この上ない喜びになります。

お忙しい中インタビューに応じて頂きました。期して感謝の意を表します。

(日本材料科学会 編集委員 永井達夫)